

令和4年度第2回神戸市子ども・子育て会議「教育・保育部会」

議事要旨

日時：令和4年9月9日（金）10：00～11：30

場所：神戸市役所1号館7階・オンライン

1. 開会

2. 議事

（1）利用調整基準の改正について

●事務局

資料②により説明（省略）

（質疑なし）

（2）神戸市子ども・子育て支援事業計画 教育・保育の量の見込み及び提供体制の確保に関する中間年の見直しについて

●事務局

資料③により説明（省略）

【1 教育・保育の提供体制等に関する状況】（質疑なし）

【2 見直しにあたっての現状分析について】（質疑なし）

【3 見直しの方向性と算定方法について】（質疑なし）

【4 令和6年度までの量の見込みと確保方策について】

○委員

・15ページの「（2）1号こども」の「計画値（確保方策）」の見直後に実績値を入れたことは、大変評価すべきだと思うが、もう一つ踏み込んで利用者数との大きな乖離を今後どうしていくかを考えてもらいたい。

- ・ 今後については、令和7年度以降の計画で示すことかもしれないが、それでは遅く、令和5年～7年の3年間の確保策を考える上で、利用者数との大きな乖離を考慮すべき。
- ・ 認定こども園の1号枠は、利用定員より実績値が大きく下回っており、部屋が空いているから、認定こども園の1号部分を2号・3号に変更する計画にしてはどうか。今までは右肩上がりで需要が拡大してきたので2号・3号の確保が必要であったが、今後は、就労率の上昇と、少子化のバランスのなかで、2・3号の若干の増加と1号の減少も見て、5年、6年、7年の確保方策を考えるべきではないか。

○事務局

- ・ 3歳から5歳の子どもは、認定こども園の中において1号で利用している方や2号で利用している方もいる状況であることは、十分に承知している。小規模保育施設だと、2歳から3歳の時に、園の選び直しが起こるので、認定こども園の機能を有効に活用することが重要となる。

○委員

- ・ 表が1号と2号・3号が分かれており、1号の子どもに乖離が生じている。1号の乖離部分を、2号・3号に取り込むということはできるのではないか。

○事務局

- ・ 少子化が進行する一方で、2号と1号の割合が変わってきていることは、指摘のとおりである。
- ・ 1号だけを受け入れている幼稚園型では、空き教室等が出ていることは、承知しているので、認定こども園への移行を働きかけていくべきだと考えている。

○委員

- ・ 認定こども園に移行していない幼稚園に、移行を促すのは大事なことであり、平成27年を迎える時期に開催したような説明会を改めて開催するなど、丁寧な取組が必要である。
- ・ 加えて、認定こども園に移行している施設における利用定員の見直しを、もう少し促

していくべきではないか。1号を減らして2号・3号に利用定員を増やすというような確保方策で、2号・3号が増やす観点重要ではないか。

○事務局

- ・これまで待機児童の解消や、保育・教育の充実に向けて、皆様方に協力をいただきながら、これまで取り組んできた。今後の進め方は、関係者と十分に協議をしながら進めていきたい。今後、関係団体と相談のうえ、一堂に会して協議させていただきたい。

【その他意見等について】

○委員

- ・資料16、17ページの確保方策について、1歳、2歳の定員が増えているが、3歳から5歳の定員が増えていない、これは、先ほど言っていた幼稚園の、移行とか何か訳があってこの定員が増えてないのか、ここは増えなくても大丈夫なのか。3歳児の待機、小規模保育施設からの転園が難しいという話も聞くが、定員を拡大しなくてもカバーできると考えているのか。

○事務局

- ・3・4歳・5歳は、1号でも2号でも使える選択肢がある。0・1・2歳に比べて、3・4・5歳の定員のほうが大きくなっている状況のなか、空きが出てきている施設もあり、新たに定員を作るのは適切ではないと考えている。
- ・一方で、ごく地域的な偏りの中で、まだ出生数がかなり強めに出ているところにおいては、どうしても1歳とか2歳の需要を十分に賄えきれていないところがあるので、今回は小規模型で、0、1、2歳のところにターゲットを絞って整備をさせていただきたいと考えている。

○委員

- ・想像以上に出生数が減っているところを、直視しないといけない。特に1歳の定員が大幅に減少するなか、子どもたちの育ちを応援するために苦労されてきた事業所の経営の状況も見ながら進めていかないといけない。出生数や人口を増やすために、今後、

神戸市としてどのような施策を打っていくのか、子ども・子育て会議においても改めて議論が必要ではないか。

○事務局

- ・ 去年までは1万人を超えていた出生数が、今年9,500人台に落ちたことで、我々も非常にショックを受けており、回復に向けて取り組んでいかなければならないと考えている。
- ・ 一つには、まちの魅力を高めるということで、市役所の隣に高級ホテルを誘致し、神戸のまちを楽しんで移り住んでいただくことは非常に重要だと考えている。三宮だけではなくて、垂水の駅前とかも図書館の整備や体育館等、子どもたちが成長していく上で必要なファシリティを時代に合ったものにさせていただくことが、非常に重要だと考えている。
- ・ 0・1・2歳の保護者の方の負担軽減に資する産後ケアやリフレッシュステイなどに加え、待機児童ゼロも、非常に重要なことと考えている。地道な取組のところが本来的には子育てで非常に重要で、日々の生活、子育てにどこまで寄り添えるのかが重要だと考えており、そういった取組を伝えていきたい。

○委員

- ・ 新しい事業者を増やしていくよりは、既に施設を運営している事業者で需要増加に対応していく方針については同感。
- ・ PR広報を単なる一方的な情報発信ではなくて、パブリックリレーションズのいわゆるつながりを計画していく方法を一度ここで考えてみたらどうか。例えば、地域との一番の窓口である児童館の運営委員会等に対して子ども・子育て会議や神戸市が実施しようとしていることを理解していただく意見交換を最低年1回してはどうか。

○事務局

- ・ 今、市として子育てをもっと戦略的にPRをしていくために、何をしたらいいのか広報戦略部と一緒に案を練っているところで、もう少ししたら、形になると思うので、是非そういったものを活用しながら、皆様方の協力もいただきながらしっかりとPR

をしていきたい。

○委員

- ・一方的な情報発信だけではなくて、双方向のそれぞれ意見を聞くような場所で結果的には浸透していくというような戦略が共有できればいい。

○委員

- ・さきほど子どもの数が減っている話で、引っ越しを考えている人は会社から近くていい場所を選ぶと思う。神戸は企業が多いので、企業やこれから結婚する人に向けて神戸市の施策を、アピールすることも重要ではないか。

○事務局

- ・神戸で勤務しているが他都市在住の方も多いので、ぜひ企業にも協力をいただきながら、PRをどうしていくのか考えていきたい。

○委員

- ・これから区域ごとに差が出てくると考えており、それをどのように丁寧に追っかけていくのかが、求められている。
- ・この会議での中間見直しは、量の見込みと確保方策について話してきたが、地域子ども・子育て支援事業の見直しは何も触れられていないがどうなっているのか
- ・子育ての世代は、口コミで動かされる人たちもいるぐらいである。どういい口コミをもらうのか、SNSなどの口コミを意識しないといけない時代ではないのか。

○事務局

- ・基本的には、量の見込みとの乖離が非常に出ているので、今回教育・保育に関する部分は、中間の見直しをさせていただいた。その他は、計画値との乖離が国が求めているレベルではないため、現在のところは、見直しを考えていない。
- ・SNSの話については、若い方に聞くと本当にSNSで様々な情報を取得されている。神戸市でも「神戸ママフレ部」と言っていて、SNSでインスタグラムを中心に市民の方に子育てについて、いろいろ情報を発信していただくと、公設だけでなくお店など行って楽しかったところや、利用して楽しかったサービスを、発信をしていただく取組

を行っている。インスタグラムのフォロワーの数は、多分6,000ぐらいで増えてきているので、ぜひそういったことも含めて、PRをさせていただきたい。

○委員

- ・開発等を行う不動産業者に情報提供し、神戸に若い世代が移り住んで、そこで結婚して子ども産んでもらえるような住宅造ってほしいとアピールすることも必要だと思う。
- ・「神戸ママフレ部」のフォロワーが6,000人と伺って、ちょっと責任を感じた。保育園連盟と幼稚園連盟と併せたら何万の保護者いるのに、そこにちゃんと情報届けるべきだったと思う。ぜひPRのチラシ等を作成していただき情報提供して欲しい。
- ・他都市在住の方が神戸市内の園に、2号・3号で入園したい場合は相当マイナス点になり、入園できない。1号・2号・3号の空きが出てくる環境では、他都市在住でも神戸市内の園に取り込むような施策を考えていただきたい。

○委員

- ・量の見込みと確保方策について、資料③のとおり進めてよいか。

(委員一同了解)

(3) 幼保連携型認定こども園の認可及び利用定員の設定について (非公開)